

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>

迎春



平成21年1月5日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : 陸運事業本部ソリューション部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 中島 英男
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第79号

【目次】

1. 2009年 新年ご挨拶
2. 2008年度 MCLC安全大会開催
3. 2008年度 MCLC防災訓練開催
4. 運行管理システムスタート
5. 衛星場所自慢 Part2 ~第11回 名古屋支店~
6. 「企業の競争力を左右するシステム運用管理の最適解」セミナー参加報告
7. 物流イベントスケジュール紹介



1. 2009年 新年ご挨拶

常務取締役陸運事業本部長
武藤文重



新年明けましておめでとうございます。皆さまに於かれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年 of 世相を表す漢字は「変」が選ばれました。米国の金融危機に端を発した世界同時不況で世界経済は大混乱の様相を呈しており、その仕組みそのものが大きく変わりつつあります。また、日本の首相交代や米国のオバマ大統領の登場といった政治的な変化、「絶対」と思われていた食の安全に疑問符が打たれ地球規模での環境対策が喫緊の問題となるなどの意識の変動、日本人の複数ノーベル賞受賞や北京五輪などもあり、良くも悪しきも激変の年でした。

今年も、当面は、米国の消費の冷込みを受け、国内の自動車や家電を中心とした輸出産業の業績は悪化を余儀なくされ、それらを下支えしている企業の低迷、雇用面への影響も避けられないと云うのが大方の見方です。私は仕事柄、中国及び東南アジアの国々へ出かけることがあります各国とも想像以上にダイナミックに変貌しており、その国情は一括りで表すことは困難になってきております。尤も旅行者としてはこの地域で、日本の人情と共通するような優しさに触れられることは本当に嬉しいもので、日本人はもっと隣人である東南アジア各国の国情・生活状況を理解すべきと思っております。今後益々この地域の状況が日本の生活に直結する、言わば一衣帯水の関係になっていくことでしょう。

以上に述べたような危機を伴って変貌する世界及び国内情勢の中で、ピンチをチャンスに変えていくには、現況を正確に認識し、適切な戦略を立て、機敏かつ柔軟な対応を採ることが重要です。そして、何よりもまず自分自身から変わることが大切です。

今年 is 丑年です。我々は「信頼されるソリューションプロバイダー」として、荷主様へサービスを的確にご提供することで、敢えて牛の如く一步一步地道に信頼を積み重ねて参りたいと思っております。共に良い一年が歩めますよう、どうぞ、今年もご指導ご鞭撻を賜りたく何卒宜しくお願ひ致します。

2. 2008年度 MCLC安全大会開催

昨年11月27日、「平成20年度全社ゼロ災・QA大会」が中国支社で開催されました。

三菱化学社水島事業所RC推進部GMを来賓に迎え、大森社長以下会社幹部、連合会会長、中国支社、協力会社を含め約120名が参加した非常に充実した大会となりました。

昨年、当社は「物流の原点に立ち帰ってRC及びコンプライアンス(CSR)の強化と品質の向上を図り、荷主の期待にこたえるとともに次の発展をめざす。」ことを経営目標に掲げ積極的にRC活動に取り組んできました。

今大会での発表テーマは、現場に密着したRC活動、荷主要求レベルがますます高度化する中での取組み、安全文化を育むための社員教育等非常に広範囲にわたりました。

また発表後には、積極的な質問があり今後の取組みに活かす議論ができました。

発表事例を各場所に展開し、ゼロ災達成に向けて全社一丸となって取り組むことを誓い大会は終了しました。

◆発表テーマ

- ①安全QA活動体制と3年後のあるべき姿(九州・営業1部陸運2課)
- ②Pet樹脂取扱いにおけるノートラブルへの道
(東日本・首都圏物流センター)
- ③海運課の安全QA活動(四国・営業部海運課)
- ④現場力強化に向けた課員の感性向上の取組み
(鹿島・筑波支店業務課)
- ⑤海運課ゼロ災への航海(中部・営業部海運課)
- ⑥トラック出荷の三確実行によるトラブルゼロ推進(尼崎・油槽管理課)
- ⑦新人教育資料の作成(中国・営業部海運課)



3. 2008年度 MCLC防災訓練開催

昨年9月～12月にかけて、各支社・油槽所にて総合防災訓練が開催されました。

長いところでは今回が35回目の訓練となる場所もあり、各場所とも現在まで培ってきました経験に新たな工夫を加え、万一の事故に迅速かつ適切に対応すべく、「ローリー積荷漏洩事故想定訓練」「内航船舶積荷漏洩想定訓練」「基本規律訓練」「屋外消火栓操法訓練」等、本番さながらの訓練を実施しました。

尼崎油槽所では、従来から行っています当社の防災訓練に加え、西宮海上保安署(※)の要請により、12月17日に同保安署と当社合同による「栈橋着栈タンカー火災想定訓練」を行い、地元地域の官公庁との連携にも力を入れております。

※正式名称 第五管区海上保安本部 神戸海上保安部 西宮海上保安署



尼崎油層所 総合防災訓練 風景



尼崎油槽所 海上防災訓練 風景

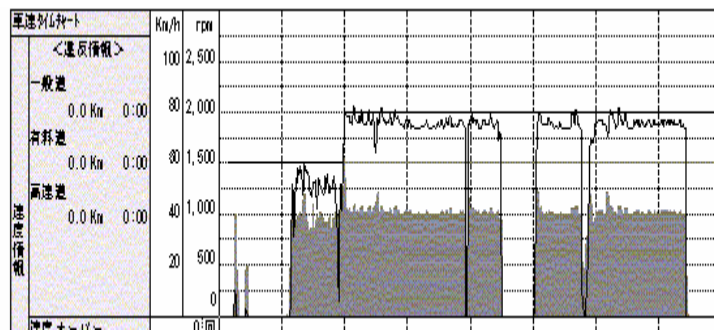
防災訓練実施日

9月11日	尼崎油槽所
9月25日	川崎油槽所
9月26日	四国支社
10月10日	九州支社
10月15日	中部支社
10月17日	中国支社
10月23日	鹿島支社
12月17日	尼崎油槽所
12月18日	筑波支店

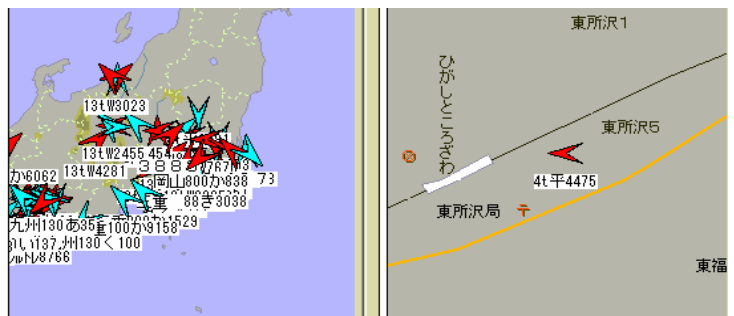
4. 運行管理システムスタート

昨年11月よりデジタコを用いた運行管理システムが、子会社の車両(約300台)を対象にスタートしました。スタート当初は、ボタンの押し忘れやアラームの発生等、操作や運転に不慣れな面が見受けられましたが、徐々に改善され、今では安全評価点が満点の乗務員が続出する職場もある様です。

車両動態管理では、車両の現在地がリアルタイムで把握でき、到着時間や帰社時間の予測も可能になりました。また危険ポイントをルート上に設定する事によって、ポイント毎に注意アラームを出力する事ができ、きめ細かく安全運転を促すことができます。まだまだ登録ポイントが少ない状況ですが、今後充実させて行く予定です。



運行記録帳票(速度と回転数のグラフ)



車両動態管理画面(一部分)

5. 衛星場所自慢 Part2 ~第11回 名古屋支店~

名古屋支店の開設にあたっては、中部地区を襲った昭和34年の伊勢湾台風でM社工場が被害を受け、当社九州支社から被害対策の応援を派遣し、復旧作業にあたったことから、深く荷主の信頼を得ることができ、作業の一部を任されて昭和35年6月四日市出張所(現 中部支社)が開設されました。その翌年M社名古屋加工部より加工作業を請け負い、昭和36年3月にM社敷地内に名古屋支店を開設し現在、場内包装作業、倉庫管理、輸送を担っています。

名古屋地区の歴史を語ると、御当地、尾張名古屋は城でもつといわれるように、今でも戦国時代の英傑たちがこの地域では幅を利かせまた、名古屋城は金の鯨を輝かせながら、そびえ立っております。

城内は徳川宗春の時代の華やかな展示品で、かつての繁栄を思い起こさせます。そして城西には豊臣秀吉が幼少の頃、畦で遊んだ豊国神社が有名で、当支店の目と鼻の先に位置しています。「篤姫」後の大河ドラマとして戦国時代をテーマにした「天地人」がスタート、彼らの活躍が再び語られるようです。

さて、現代に目を移すと、愛知は製造業、物造りで有名なのは周知のことですが、中でも自動車産業のトップを走るT社の本社ビルが名古屋駅に建設され(当支店と同じ中村区です)、ツインタワーと合わせて人気スポットとなっています。

最後においしい話をひとつ。ひつまぶしの蓬莱軒、味噌煮込みの山本屋や味噌カツの矢場とん等が有名ですが、今回は新幹線のホームにある「名代きしめん」というお店を紹介します。公演の際は必ず「きしめん」を食べにくる芸能人がおり、新幹線を1本遅らせても食べるほど。この季節はうどんも美味しいですが、名古屋に立ち寄った際は、鯉節たっぷりのうみや〜「きしめん」を食べてみちよーよ。



名古屋城



T社本社ビル



きしめん

6. 「企業の競争力を左右するシステム運用管理の最適解」セミナー参加報告

昨年の10月に日本経済新聞社主催の頭書セミナーに参加しましたので、概要を紹介いたします。現在、情報システムは企業の業務や社会生活に不可欠なインフラであり、その信頼性の確保は重要な課題となっています。そのような中、情報システムの運用管理(ハードウェア・ソフトウェアの保守管理、J-SOXやコンプライアンスへの対応、新システムの開発等)への要求も高度化し、高品質・高効率性が求められています。一方で情報システム部門では技術者の不足、マルチベンダ化、システムの複雑化、運営費・開発費の低減要求等、重い課題を抱えているのが実状です。

この両方の課題を解決する手段として、各社より運用管理をサポートするシステムの発表がなされました。詳細は省略させていただきますが、タイプとして①アウトソーシング型②SaaS利用型③自社開発型の事例でした。これら発表の中で特に印象に残った事例2点を述べさせていただきます。

1) サービスの定義・目標数値の明確化とリスク評価の実施。

・リスクの最小化に向けてどの様なサービスを行うかを、技術的根拠に基づいて決定する事。

2) トラブルゼロを前提とした運用体制では、トラブル発生時の対応に問題がある。

・被害の極小化に向けたアクションプランを用意しておく必要があるという事。

当社の物流システムもトラブル発生時には、荷主・納入先を含め社会的にも大きな影響を与える事を再認識し、運用管理の最適化に取り組まなければならないと考えさせられたセミナーでした。

尚、経済産業省より説明のテーマについては紙面の都合で割愛しました。

7. 物流イベントスケジュール紹介

実施月日	開催場所	名称	内容	主催及びURL
12月10日～1月10日	全国	年末年始の輸送等に関する安全総点検	輸送機関等の自主点検等を通じた安全性の向上と輸送安全等に対する意識の高揚を図る	国交省 http://www.tht.mlit.go.jp/sm/081201.pdf#search
1月27日 2月2日・9日・16日	日本包装技術協会 会議室	ロジスティクス管理・オペレーション基礎講座	中央職業能力開発協会のビジネスキャリア検定試験3級のための講座	日本包装技術協会 http://www.jmhs.gr.jp/Other/JMHS_BusinessCareer.htm
3月3日～6日	東京ビッグサイト	ICタグ2009	ICタグとRFIDソリューションを集中的に展示する特別企画展	日本経済新聞社 http://www.iccard.jp/
4月23日	大手町 サンケイプラザ	全日本物流改善事例大会2009	優れた物流改善の事例を発表し、合理化の手がかりやノウハウを共有し合う交流の場	日本ロジスティクスシステム協会 http://www.logistics.or.jp
5月21日～22日	東京ビッグサイト	SCMソリューションフェア2009	産業界がSCM構築を実現するために必要な様々な情報を提供	日本ロジスティクスシステム協会 http://www.logistics.or.jp

編集後記

ソリューション部 工藤さつき

新年明けましておめでとうございます。皆様お正月はどのようにお過ごしでしたか。私は毎年年末年始は故郷の福岡で過ごしております。元旦のお雑煮はもちろん「博多雑煮」で、その代表的な具材の一つが「かつお菜」です。「かつお菜」は博多の地方野菜で名前の由来は「カツオのだしがいらぬ程風味豊かだから」とも言われています。また、お雑煮に入れるのは「勝男菜」と当て字ができ縁起がいいからだとか。

冬に博多へお越しの際はぜひ一度お試し下さい。